白隱和尚如來禪

津田文庫
文庫1
1588

010190596988

白隱和尚著

# 假名法華

つだ文庫

1588

# 新板假名法華

附録新撰議

實相眞理円融無礙
法華一乘妙法蓮華
經乃月輪は高峯の
雲を拂ふ事なれば

たゞかほどは釈迦仏一念にて解
達磨の元祖の居士は涅槃三
禅に律も言八く仰て一つの
合をそりては大勢上みまで
道ある奇特でおどろかれた
おもきとやすげども丈
切の時節なるが非を付け

生死利益三全の有情立ち
縁つて咏嘆焼熱見尾合
紅蓮大紅蓮の罪不の轉
まもて衆生恒河に苦患を
文まゝは月のわりくなぐ相ひ
修行て如らきべし
やまとたいをのみ主相三代目

輪廻は生死長夜の闇に迷ひて
とは昔し禁庭に錦ゆもゆる日
宮には勅使まちて神慮を露り
やまひきたる時天照天照に
大和の神楽一つの偈を作て
爰にてをもひかけし神勅を
此時にこそ神とも云ひ仏と



いふ也二重水波の隔て
あるは、初めとしてまとまる
だにやまさる経ほとて十力羅網の如
来迎弥陀の来迎せられたらんは
是仏一尊にてあまり解脱に至
多ハ縁起に渇仰し
経くにわたりし程に遁世す

毛部堂家
らは竹毛宮
那ちうの
御
人食と堂
進ひ

足りぬ事をもまても先体に毒入
ぬる五臓も六腑も腐りて
終も貪欲瞋恚愚痴
つもりくる炎に剰る身を焦し
十悪を作り宮行て自ら
しらげて冥途に入る其趣
我がゆるは何の正体もなく

獄舎へ入るならば此所の業苦は
逃れ性根をもつて目を開は花か
冥府へ落入九山三途の河
原なれし見る罪深の目も涙も
瞋闇給ひなりしくと落りて
里もなくなとを行かと思ば方角も
廣き野原に出る此所は月日

五

乃光は寂しき昼とも明かなる事なく
大叫喚れ如是等皆焦熱大焦
熱乃極火の焔さと燃上る者
其中に罪人共の透間もなく群り
居ても口と阿鼻叫喚様浅猿や悲しき声
叫は責られも啄き出る悪魔に
流れ出る娑婆にて楽しき

其有事を露知らず悔しきよ夢
に亡者とも知らず其内は身をとく
命を惜しみて後世を顧も
菩提乃水様もあるべきものと邪見
悪智乃人これ也六道の天堂
地獄なども云れば根もなき虚言
なれ共其證據は開闢

[illegible]に入て北徴龍を立
脇に[illegible]者多く[illegible]に[illegible]を一代
[illegible]なる[illegible]を[illegible]沢定して北徴天
堂を[illegible]鐘[illegible]を[illegible]又[illegible]を
[illegible]を[illegible]を[illegible]を[illegible]
[illegible]を[illegible]人[illegible]を[illegible]北徴に
[illegible]を[illegible]社[illegible]を[illegible]又[illegible]を[illegible]



[illegible]る北徴[illegible]ば[illegible]は[illegible]を
[illegible]人[illegible]を[illegible]
人[illegible]を[illegible]を[illegible]下[illegible]も下
[illegible]も[illegible]諸[illegible]を取
[illegible]を[illegible]を[illegible]を[illegible]
[illegible]白賢[illegible]を[illegible]官[illegible]人[illegible]を[illegible]
[illegible]を[illegible]を[illegible]を[illegible]偶く変

罪人とても受千萬劫にも遇
罪佛法に逢がたき身の難も
悪たにおかし牛馬同前の心地して
闇くやし三途に暗く悩むよ今は
せん方もなき身の度は貴も
賤も老ても若きも知ず知ず
皆悉く猛火乃底に在て泣叫む



爰は聞に瞋恚心得かぬ
古き貴き聖は常に嘆せたまへは
一度三途に入ぬれは二度出る
事もなき浮しき善佛もたのむ
されば世の愛も欲もあれども
今こそ知きたなき浮世乃
夜に闇浮は修羅乃ある事

唯一滴の水器に掬ふに
一粒の米あり四方面畫く皆
極火なれども立忍ぶこと不可能
見渡すはあれども泣苦しく泣苦
痛へ難く又うまくあり四方
あるは美く赤球とあれども
あるあるたくこれ一もよい責苦の罪を

なほも貴方々とみさまを
探あれ間錯ちそう期迫は
幸き目をもてもらん者
延喜の帝様の簡が岩屋の白藏
天人に乞ふ奈落藏
に沈むは利利も首枕も苔むすを
利と詠まもも重に今見

遍ありぞ
もう家も
庄屋も名
いりと
頭方祀乃
人々
縄間乃底

紫衣紅衣
和尚と大義
そもそも
徹卒れ杖に
社殿を
に極楽
阿弥陀
知識
仏
法華
説法
水鳥

念佛修行もしたまふとも悪業難き
重きを身とおもふは煩悩
色界境界は人に勝る事も多く
かなしむべき事はたくさんの望は尊き
誠にまた思ひ切て往生浄土
望は更にかくし苦を離れがたく
恐るる所あらず捨てはてよ

浮世は安楽に走る時も油断せず
あくまで身を捨し命に代ても後世を
助かるべき道を求めず仏の心にも
口惜の今はなき者は最初の
心は三悪に落入り憂
驚きうつろふ思ひあれば世に
恨めしき者は世の中に教を限

紀宗教御門乃人となれども
物者こころ少なりとも教に
むかひ不覺はとゞまるを
事を極楽浄土の仕方とおもへ
故今弘果とは悪に沈
まんとうとはまうは
乃御門法師乃

恨かとうまれ給ふ御門法師乃
むかしとなりしもこゝろ
事を極楽乃傳倶紫江長
者信之信者遠の塵俗乃五実に
少聖を動ぐ御業
昼夜に責悔

ゑ奉は此人も始を露ぞを
おはやう給ふにこそ兎にも角にも
是ん方便は乗くが今のかまれ
果なれば歩みなく此も沢と蓬
惜しく法味身はてんも崩落つく
こゝそ堂の坐ては彼乃止観珠林十
王経などは観宜置ども大黒



りかれば人々に涙しまして池の
きもひてんは釈しまふ蒙
目をも見えぬやうに良薬は口に苦
忠言は耳に逆ふと申せは師常の
極楽の有様に候面白は覚て侍る
又此は引きたれども道は近か
語をなあきぬ時に聴衆に天

有難き座主を遁れ出て有難く存ず
やすく者面目なれ情縁よる所
思議の信會ハ遙に出ず
真正の説法ハ本遁をも為す
有難き法事も付たる筋を
賤賣の都濁乃濁也ハ一業乃極
楽也とのと聞て来世は心あ

事ハの愛で毎日限りに飛業
積重て微も足らず候ハ三途乃
舊里へ帰て量劫書を経て
累も無き書を重ね事は露
しらずて擬の童子れ無れが
如牛馬乃蛾たるに
許し衣食とのを求めて

飽足果しも無き事も聞く
と受け給はり人果て給ふ事は
造立の功
六十余りの
果は都賀
田舎し
佛へ
生一昭
有かは罪
何程
佛は
戒無者
罪業を
明日を
雲の

活命には物を通ずべし物を通ずるにあたて
俄に胸夢の覚つるが如くなるべし
貴必作ること捨置むべし作ることを
役にしかれば不作ことを減
ずべし
貴を起すを事とせば
結果人の親のそのこころを敬て云作が
草各に厚く進て家業

つねに怠ることなきを世間
で勤ると必多事を世間に若め
たらんは糸は必食間に若め
らるべし
惰し油の如きを待し
教喩に云に親を勤
ずるまいに宜く金泥に如
農業で勤つるには昔腹の

田畑を譲りて而後に例年の
如く勤めさせ事なれども
云ぐ頭和して命に隨ん者なり
もとより田畑を譲ぶ農を勤よ商
を勤よとの教に違ふ事なし
とは農商を勤ん今時の
業に勤よ田畑をもつ事な
かれ田畑は天地の生ずる
必要なれば農は
たゞ全く本のかをもつて田
畑を譲ぶ永業を勤よ田
畑をもつて教の如く農
業も又本のかの道を修
如何なる人者を作て田畑新

所を動くべからず衆僧を助けざるべ
からざるは事を助けざる道理なり
精く勤めて怠る事なく処を
救ひ助くべし然るに顔に色を
和らげ言葉を柔らかにして
衆僧門を称して法僧乃至
僧一数なりと帰命し信じ
事は常住不変乃法財を積み

財を動かす大施を行ひ一切を利益
せんと願ひ事を求めて邪を離れ
智慧を知らず迷に陥る者も
亦知らず悟を求めざるべし
井に趣んで首を失ふ人を傷む
事を思ひて事を知らず
ものが故に相助ける心なかれ

新代乃出家沙門も亦しかるべし
因果報恩あるべきものなり
六趣を更て輪廻きわまりなく
盲者乃赤子を水に投ずるが如し
又愚夫愚婦も情深きに
邪か曰若我問事を撰て他師
知りも知ぬ新師に
ら迷ひ
置てんしに
迷ひ
乃ちこのこと
如一切衆生長生不死乃人
迷丹即ち義佛乃秘訣なり
眉毛を惜ん

謹て精神を凝て聽き一行三昧
事なき理を解脫外面六尺の枝條
黑雲白雨俄かに起り
媚觀奇巧に美を盡し惜き
所實性善卽看雲霧の迷漠
如波浪の漲るを感懷し溢
て歡腦に凝て目を多光の雲業を
見て後重重に疊なれば
見て遠く偃蹇峻嶮高合の
縱橫雲乃大者悪一果の報責
を祖師百如を經て休罷る者も
こと莫者も及ばざる傳乃
實く一切地獄乃果生乃苦を
發菩提心を說ば同じく抜乃

[illegible]生死[illegible]を生て死へ
と宝[illegible]くべし[illegible]
聖人の道の善域を通さし
八難の岸を超越し一超直入の業
地に直入し[illegible]
欲は[illegible]を静心を凝て[illegible]晴
[illegible]井田の[illegible]

金男女相[illegible]
[illegible]邪貪富[illegible]
[illegible]生彼の黄[illegible]
精[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

青情風滿て玉盤を擲推し
氷樓を推倒せんに新て下界の
人々打笑ん物におそれ物進で
退てんば則ち計ばも一正路甚しと
貫通して中空虛空に大地す
土石して事如乃義裏精深をぞ
ぞ意変ぞ乃もん生物乃飛乃

謂四海衆心脱落脱落一身上に
生死人乃謂乃人乃謂乃人乃言葉
窮く投もまさ窮風金綱を誰を
鶴籠を脱て底乃好時節
見ても夢事は昼に堂上
見る如長河を撞て履脚
後前棘を裏して徳禮拝を

銭を積て金を生ずる時
節人を天下の義果を以て
縦作高ノ作ノ富をもて
貪欲一炉の夢覚四海を
傾も天下の怨嗟を
色故に言富は是一生の財身滅
身は単に滅を
石代の賀金銀
天地の間一切の有情
惟人を人に到て
僧俗男女鳥
庶に到て近正因備性の人事
見聞を
真如の日輪と

月輪を云ふと考へれば
心通輪廻乃苦を生流物常没乃
化身と成る悲願を
得則ば能生上正覺を成て衆
生乃大師十力調御の
如来と同位を成ん
が乃為に人を導く

心法微妙を
山城が三十雲乃谷乃
響は三界乃内使や聞とは
思へ乃集て
はもはぐあ乃又来迎あ乃
おこ〳〵

新説議終

# 少雅君下帳抄

跋

いろ〳〵いろ〳〵見之不敢一千載
ゝゝ重し難しと予昨日入室の
次ゝ古聖の堆裏に入て捜索するに
あらゆる場所に稿を得ゝ洗写す
恰収之ゝ即清出ゝゝ持小
ゝゝゝゝゝ毛師録の策乃
折ゝ国許に治りて予資生
事工信ゝ江府工下る寫小拾遺を

袖よりあて二三ゑ[illegible]ゑ[illegible]
同鐍を字り[illegible]の礼を[illegible]
この[illegible]の見[illegible]雁[illegible]の鳥[illegible]
[illegible]成[illegible]ゑ[illegible]清[illegible]庫[illegible]秘[illegible]
[illegible]乃[illegible]

泰徒

是性　謹書